



文化祭・書道部によるパフォーマンス（高校）



広島国際学院  
創立86年



高城祭・表千家流茶道部の茶席（大学）

ガッツ石松客員教授講演で熱弁

特集 ガッツ石松客員教授講演	2-3
教員の学長表彰	3
未来を拓くテクノロジー	工学部 4
歴史と現代、海外へ向ける視線	情報化学部 5
体験と実践で広げる知識	総合教育センター 6
高度な整備士育成への努力	短期大学部 7
高校から発信	8-9
第46回高城祭「POPCORN!!!」を終えて	10
大学同窓会総会	10
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	11
表千家流茶道部の大きな茶会活動	11
有終の美、全国2位の中	12
茶道の久賀先生、特別客員教授に就任	12
今後の主な行事予定	12

広報

第93号

平成26年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>  
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

# ガッツ石松客員教授講演

～熱く語る『人生ガッツ論』特別講義と高城祭で～



わかりやすい言葉で受講者に努力を説く  
ガッツ石松先生

## ●特別講義「人生ガッツ論」～新しいことに挑戦し、チャンスをつかもう

10月2日、本大学中野キャンパス611大教室に200人ほどの受講者をあつめ、客員教授ガッツ石松先生による特別講義「人生ガッツ論」を実施しました。講義は、1年生を対象とする必修科目「初年次セミナーⅡ」第2週の全学科合同セミナーとしておこなわれ、「新しいことに挑戦し、チャンスをつかもう」をテーマに、講話・対談・質疑応答といった内容で構成されました。

前半の講話では、栄光と困難をともなう経歴についてお話がありました。経済的に恵まれなかった生いたちから、上京してボクシングをは

じめるときの決意、全日本新人王やWBC世界チャンピオンになったときの栄光、引退して実業界や芸能界に飛びこんだときの苦労など、あらゆる場面で全力をつくしてきた半生について、時おりユーモアをまじえながらお話しになりました。またそのなかで、分からないことを他人にきく素直さや、失敗を恐れないプラス思考の大切さなどをまなんだとし、「運というのは、そこらへんにたくさん飛んでいて、努力する人のところにくっついてくる」、「言葉を『吐く』という字から『-(マイナス)』をのぞいて『+(プラス)』を残せば、夢が『叶う』」、「一生懸命はアマチュア、プロフェッショナルは一所懸命。ひとつのことに集中するのがプロ」など、わかりやすく印象的に受講者に語りかけました。

後半の対談では、他教員との対話形式で、多彩な半生をさらにくわしく振りかえりました。スライドや映像の鑑賞もまじえながら、とくに世界チャンピオンとしての〈プロボクサー・ガッツ石松〉と、名作ドラマやハリウッド映画に数多く出演した〈俳優・ガッツ石松〉に焦点が当てられました。お話のなかでは、周囲から応援があるときはがんばれるし、応援がないときも「無」になって自分自身で集中することでがんばれることなど、経験から身につけた努力論も語られました。また、チャンピオンになった1974年のタイトルマッチの映像も、ガッツ先生の解説付きで鑑賞し、不可解なレフリングをものともせず、冷静に相手をノックアウトして栄冠を勝ちとる様子に、受講者から驚きと賞賛の声があがりました。



教員との対話形式で自身の半生を語った

学生との質疑応答では、有名になって良かったことは何かとの問いに、「社会の役に立てることができた」と答え、

また、「ほかの人にはできることは自分にもできる、ただ時間がかかるだけだ」と、努力によってひろがる可能性を信じることの大切さを強調されました。最後の記念撮影では、ガッツ石松先生を中心に、受講者全員がそれぞれのガッツポーズをとって写真におさまりました。



講義の締めくくりは全員でのガッツポーズ

受講者は、「新しいことに挑戦し、チャンスをつかもう」というテーマそのものの半生をあゆんだガッツ石松先生の人生観・人間観・価値観などにふれ、これからの自分の人生について思いを新たにすることができました。

## ●高城祭企画「ガッツ石松先生の課外授業」

～学生や一般来場者とふれあう

10月20日、本大学中野キャンパスグラウンドを主会場に開催された高城祭で、野外ステージ企画「ガッツ石松先生の課外授業」を実施しました。学生が主体となって企画したもので、ガッツ先生が学生や一般来場者とふれあいながら、講義とは違った一面を見せる楽しい課外授業となりました。

ボクシングのグローブとミットを手に登場したガッツ先生は、工学部と自動車短大の学生3名と、6年前の教え子である本大学卒業生1名を登壇させ、



大学、短大の学生に卒業生も加わったボクシング指導

ボクシングの基本を指導しました。前半のシャドウボクシングでは、力をぬいた構えとリズムの大切さを強調しながら、効果的なパンチの出し方をレクチャーしました。後半のミット打ちでは、みずからミットを構えて学生らのパンチをうけ、各人の適性にに応じた指導をおこないました。

「左ジャブが打てるようになればいい。そうすると自然に右ストレートも出る」「不得意なことこそ、人一倍努力して体に覚えさせる」「運動や仕事がかむしゃらにやるには、休みを取ることも大事」など、ガッツ先生独特の言葉をおりませながら、40分以上の熱血指導でした。最後には、学生



ミットで学生のパンチを受けるガッツ先生(左)

らとアームレスリングで対戦したり、女子学生に護身術の心得を説いたりして課外授業を終えました。

会場を後にする際には、ステージを降りて出店を回り商品の試食をしたり、写真撮影に応じたりして、学生や一般来場者とのふれあいを楽しんでいました。



課外授業の後、会場を回るガッツ先生

## 教員の学長表彰

9月2日開催の全体集会で学長特別賞の授与式を行いました。この賞は平成22年度に新設され、今年度は各学科から選ばれた4名に賞が贈られました。大学は前年度の教員勤務評価の最も高い若い教員を選考し、短大は学長と短期大学部長が協議して前年度に最も活躍した若い教員を選考しています。表彰者とその理由は次の通りです。



学長表彰を受けた教員

**渡邊真彦准教授(総合工学科)**：教育では授業改善に努力して授業評価アンケートの総合満足度を高め、研究では、鉛蓄電池の再生技術開発等に取り組みました。また、高校へ出張講義も積極的に行いました。

**神垣太持教授(情報デザイン学科)**：教育では授業評価アンケートの総合満足度が高く、また、学生の自主的学習を積極的に支援し、チューターとしての評価も高かった。研究ではオブジェクト指向無線ICタグの応用で成果を挙げました。

**山田陽子講師(現代社会学科)**：教育面では授業改善努力を重ねて、授業評価アンケートは100%に近い総合満足度を得ており、また、学生の自主的学習も積極的に支援しました。研究では、パワーハラスメントや過労死等の問題について成果を挙げました。

**楠木良治講師(自動車工業科)**：実習関係の教育に熱心に取り組み、また、短大オープンキャンパス開催や全国自動車短大協会研究発表会開催等に多大な貢献をしました。

### 細菌でセシウム除去実証開始

光合成細菌を使った放射性セシウムの回収実験に成功した佐々木健教授とゼミ生たちが、福島県の汚染農地で除染作業を開始しました。

南相馬市と浪江町の2戸の農家で5月13日に作業をスタートさせました。それぞれ50リットル用コンテナ2個に汚染農土を入れ、光合成細菌の処理剤を混ぜる方法で除染を行います。同月末までに計約100キロの土を処理し、放射線量が高い部分で毎時7～8マイクロシーベルトだったのが7割程度除染できました。

この作業では毎日数時間ずつ手でコンテナ内を混ぜる必要があります。4年の石井貴浩さんと岡川真和さん(ともに広島国際学院高校出身)が、約2週間にわたり作業に従事しました。石井さんは「復興に情熱をかける農家に命の重みを教わった」と語りました。岡川さんは「広島から来たことで注目される」と責任の重みを噛みしめていました。

この技術は、他大学の研究とともに、文部科学省の助成研究に採択されました。



除染作業をする岡川さん(左)と石井さん



龍王山の水を採取する学生たち

### 酒造りの水 山の手入れ奏効

日本三大名酒の一つ、広島県西条の酒造りに欠かせない地下水の調査活動を食農バイオ・リサイクル学科の竹野健次准教授を中心とする研究グループが行っています。

西条の酒の仕込みに使われる地下水は、JR西条駅北の龍王山の山頂付近を源流とし、ミネラル分を含みながらゆっくりとしみ出します。源流一帯では環境保護団体が山の手入れを続けています。

研究グループは、その地下水の水質と水量が10年間維持されていることを明らかにし、一連の研究活動が新聞で紹介されました。

調査した竹野准教授は「周辺の都市開発が進む中、水環境を守るのは大変なこと」と話しました。今後は土壌の項目を追加するなどし、さらに10年計画で調査を続ける予定です。「関心のある学生は、ぜひ調査に加わって」と希望していました。

### CAD利用技術者試験 ー技術者に不可欠、試験方式も変更ー

CAD利用による設計・製図は、現在の機械技術者にとって欠かせないスキルの1つです。生産工学科では、従来の設計・製図教育を重視しつつ、学生のCAD利用技術者資格取得を支援しています。その一環として、本大学をCAD利用技術者試験(1級と2級)の認定会場として運用しています。平成25年度からは、試験方式が筆記試験からCBT(Computer Based Testing)方式に変わり、試験会場もCAD演習室となりました。



CBT方式によるCAD利用技術者試験(2級)会場の一隅



シリコンバッテリー搭載電動バイク

### シリコンバッテリー搭載電動バイクを実証実験中

太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーを利用して、バイクなどの二次電池の充電を行うシステムを構築すれば、環境に優しく、経済性が高い移動手段を提供できます。

生産工学科では、市販のバイクを改造した電動バイクをこのシステムで運用しています。このたび、一度に取り出せるエネルギーが大きく、寿命も長いシリコンバッテリーに着目し、従来の鉛バッテリーをシリコンバッテリーに取り替えました。現在は実証実験を行っているところです。

## 漢城大学校芸術大学への交流訪問を実施

11月19～21日に、情報デザイン学科の学生3名と教員2名で韓国はソウル特別市にある漢城大学校芸術大学への交流訪問を行いました。また、この期間に行われたアニメーション・プロダクトデザイン専攻の卒業制作作品の発表会にも出席しました。今回の訪問は、情報文化学部と漢城大学校芸術大学の間には結ばれた学術交流協定の一環として行ったものです。

初日は漢城大学校の Kang Shinil 総長、芸術大学の Kim Jeehyun 学長を表敬訪問しました。Kang 総長、Kim 学長とも日本との交流の促進を熱心に考えておいででした。表敬訪問の後、アニメーション・プロダクトデザイン専攻の Kim Hyo-yong 教授と通訳の大学院生 Hong Seong-eun さんの案内で、学内の設備や教室などを見学させていただきました。実習作業を行う教室では、数人の学生が講義で与えられた課題以外の作品を作るため、自主的に作業を行っておりました。どの学生も真剣に作業をしていました。



漢城大学校芸術大学のKim教授(右)と訪問団

2日目はKim 教授と Hong さんに、ソウル市内中心部の歴史的な名所を案内していただきました。初めての海外ということもあり、古い建物と新しい街並みの組み合わせに学生は興味津々の様子でした。ソウル市内観光の後、アニメーション・プロダクトデザイン専攻の卒業制作作品の発表会に参加しました。

今回の交流訪問を通じて、国外の学生の熱意と同時に異国文化に接したことによって、学生の感性を刺激することができました。今後も漢城大学校芸術大学との学術交流を継続、深化していくことにより、国際的に通用する人材を協力して育て上げる体制を目指します。

また、情報文化学部ではオーストリアのリンツ芸術工科大学とも国際交流を行っており、これまでに教員3名が研修、学部長ほか1名が訪問しています。



熱心に作業する漢城大学校芸術大学の学生たち

## 初年次セミナーで大久野島を訪問

10月27日、初年次セミナーの体験学習として、現代社会学科1年生46名と教員7名が大久野島を訪問しました。

広島県竹原市忠海の沖合にある大久野島は、日中戦争や第二次世界大戦で使用された毒ガスを生産していたことから「毒ガス島」として知られています。当時は島の存在すら秘密とされ、「地図から消された島」とも呼ばれます。現在、瀬戸内国立公園に指定されている島はウサギの楽園としても有名で、訪れる観光客も年々増加しています。



大久野島の発電所跡

今回の訪問では、これまで大久野島における戦争被害と加害の歴史について実践的な調査研究や活動をされてきた「大久野島から平和と環境を考える会」の山内正之さんに講師をお願いしました。午前中、山内さんから島の発電所跡や毒ガス資料館で詳しい説明をしていただき、日本や広島での戦争被害の歴史だけではなく、加害の歴史に向き合うことも大切であることを学びました。

国民休暇村での昼食後、2つのグループに分かれ、1つのグループは引き続き山内さんに島の各地に残る毒ガス貯蔵庫跡などの遺跡を案内していただきました。もう1つのグループは国民休暇村ビジターセンターの馬場聖子さんより、植生やウサギの生態、島の自然環境と近年の開発による環境変化について丁寧な説明を受けました。

具体的な現場を体感することで日本や広島の歴史や現在について多面的に学ぶことができた有意義な体験学習となりました。



毒ガス資料館

# 体験と実践で広げる知識



海辺のキャンプとマリンスポーツを体験

## 「生涯スポーツ A」 -マリンスポーツ&キャンプ実習-

8月26～28日まで、呉市蒲刈町の県民の浜周辺にて、生涯スポーツ A の授業を行いました。

38名の履修学生は、海浜でのテント生活を行います。昨今は林間学校などの学校行事も少なくなり、テント生活が初めての学生も多いようです。学生達は、生活班で事前に食事の献立を考え、買い出しや調理を行う中で徐々に親睦を深めてゆき、会話も弾んでいたようです。また、自然の中で生活する技術や知識も豊富になり、日に日にたくましくなってくれたように思います。

マリンスポーツは、シーカヤック、ウインドサーフィン、スクーバダイビングを体験しました。これらのスポーツは個人的に体験することは

なかなか難しい種目で、授業として体得できることはとても有意義なことだと思います。

これらの体験が、今後の学生生活をより豊かなものにし、人間的に強くたくましく、さらにはリーダーシップを醸成するきっかけになってくれることを期待しています。また、スポーツの趣味として生涯定着することになれば幸いです。

## 西国街道・海田市ガイドの会「海田町と西国街道」講演会

10月30日、情報デザイン学科1年生の初年次セミナーⅡの授業として、安芸郡海田町の西国街道・海田市ガイドの会による西国街道の歴史紹介の講演会を開催しました。

西国街道・海田市ガイドの会は海田町を中心とした西国街道の歴史について、定期的に歴史資源の現地ガイドを行い、地域の歴史を紹介する活動を行っておられることから、1年生に地域を学んでもらう授業として講演をしていただきました。

お話は江戸時代の地図から始まり、西国街道と宿場町の役割の説明や歴史資源の写真や絵など、時代を追いかけながら地域の変遷を紹介していただきました。

学生達も地元の歴史についての新たな発見に興味深く聴講していました。海田町の平野部が昔は海だったことや参勤交代の大行列が大学のすぐ前の道を通っていたことに驚いたという感想が多く、慣れ親しんだ地元の歴史について様々なことが学べた良い機会でした。



地元の歴史に新鮮な驚きもあった講演会



第4回女性セミナー「和楽器に触れてみよう！」

## 女性セミナー

第3回女性セミナー「筆ペン講座」を、10月31日に開催しました。書家の佐々木美智子氏をお招きして、筆ペンで年賀状が上手に書けるように、氏名と住所を美しく書くポイントをご指導いただき、さらに、日常役立つ「ご祝儀袋」などの折り方についてもご講義いただきました。

また11月7日には第4回目の講座「和楽器に触れてみよう！」を開催しました。本大学の教職員、安達伸子氏と高石武史氏にお琴と尺八を演奏していただきました。受講生の皆さんは演奏を聴いた後、実際に尺八の吹き方やお琴の弾き方の指導を受けて、箏曲「さくらさくら」を楽しく合奏することができました。

## 集中講義「キャリアデザイン」開講される

9月9日から14日までの6日間、「工学部」「情報デザイン学部」3年生の必須科目、「キャリアデザイン」集中講義を開講し、134名が参加しました。

カリキュラムは、自己分析、職種・業界研究、ビジネスマナー、面接試験対策等多岐にわたり、企業の第一線でご活躍されている本大学卒業生のゲストスピーカーによる講話、模擬筆記試験も実施しました。模擬面接では、リクルートスーツ姿の学生が試験官からの厳しい質問に対し真剣な表情で応答していました。最後に、まとめとしてキャリアデザインマップの作成を行いました。

受講者は残暑の厳しい中、積極的に参加し、就職活動への意識の向上と具体的スキルを身に付けることができ、充実した講義でした。



集中講義「キャリアデザイン」

## 第三者評価を終えて

自動車短期大学部 ALO 濱谷 克則

本年度、本短大は一般財団法人短期大学基準協会による「第三者評価」を受審することとなり、6月末の自己点検・評価報告書および関連資料の提出に引き続き書面調査の実施を経て、9月の訪問調査を終えたところです。まだ審査の結果は内示されていないため、ここではこれまでの経緯について紹介します。

今回の「第三者評価」は、②サイクル目で前回と比べ新しい評価基準となったため、自己点検・評価報告書の作成は試行錯誤の連続となり、本短大教職員と法人各部の協力で何とか完成し、提出にこぎつけたのは期限ぎりぎりでした。

評価チーム責任者との調整で、9月18日～20日に訪問調査を受け入れることとなり、そのための資料や想定質問の準備などに忙殺されながら本番を迎えました。

訪問調査では、鋭い質問に返答に困るような場面もありましたが、本短大の現状と今後進めていくべき課題が浮き彫りになってきた貴重な時間でした。

無事に訪問調査を終えることができたのは、理事長、学長、法人各部のご支援ご協力の賜物であると同時に、本短大教職員の一丸となった活動成果であり、深く感謝しています。



評価チーム(右側)との質疑応答

## 整備のプロを目指して

—自動車検査独立行政法人中国検査部を見学—



車検ラインの見学

9月13日、就職ゼミの一環として1年生51名が自動車検査独立行政法人中国検査部を見学しました。

中国運輸局陸運技術専門官で本短大の卒業生でもある加納雅之さんに「法律から見た整備士の役割」と題し、道路運送車両法に基づいた認定工場・指定工場等における整備士の役割や業務内容について講演いただきました。加納さんは自身の経歴にも触れ、学生時代には思いも寄らなかったが今では講師として年間数十回の講習もこなしていること、毎日が勉強であることや読書の大切さなど多くのアドバイスをいただきました。

一方検査場見学では実車を検査ラインで走行させ、排気ガス成分の測定、ブレーキ、ヘッドライト性能、ピットでの下回り検査の要点や傾斜角度測定器での傾斜角度検査など、道路を安全に走行するための諸検査の一連の流れについて、本大学の卒業生でもある藤谷公夫検査課長に説明いただきました。

自動車整備士を志す1年生にとって普段の講義や実習と現場との関連性がより明確になった見学でした。

## 三菱自動車工業(株)水島製作所に学ぶ —平成25年度 研修旅行—

学生生活指導委員会 佐々木 博和

8月28～29日に1泊2日の日程で研修旅行を行いました。

1日目の研修は、岡山県の三菱自動車工業(株)水島製作所を訪問し、プレス、組立ラインを見学しました。歴史ある工場で、各生産ラインには最新鋭のロボットが導入され、国内でもトップクラスの生産能力と高品質の車づくりに努めています。鋼板から自動車になるまでの工程がよくわかり、勉強になりました。

倉敷市内で昼食の後、一路ユニバーサル・スタジオ・ジャパンへ向かい、閉園まで過ごしました。夏休みのためかほとんどのアトラクションは長蛇の列でしたが、学生達はそれぞれに楽しんでいる様子でした。

2日目は神戸海洋博物館・カワサキワールドを見学した後、お隣の神戸ハーバーランドumieで自由行動、グルメとショッピングを満喫し、帰路に着きました。2日間で互いに交流を深め、学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。



三菱自動車工業(株)水島製作所にて

## 変化とチャレンジ 第52回文化祭

11月16～17日、第52回文化祭を開催しました。今年度のテーマは「1400人の絆～じえじえじえ国際で!?～」。

全生徒が力を合わせて1つの行事を作り上げ、その活動を通して絆を深めていこう。という思いが込められています。

2日間の開催は創立80周年記念文化祭以来で、初めての取り組みも多数ありました。

ステージ発表では16日に1年生の合唱祭がありました。各クラス審査員の方々を悩ませるほどハイレベルで、最優秀、優秀、敢闘賞を得た3クラスが翌日に発表を行いました。17日は3クラスの合唱に始まり、恒例の吹奏楽部や軽音楽部、有志によるダンスが披露されました。いずれも日ごろの練習の成果を十分に発揮していました。初めての挑戦と

なった国際コミュニケーションコース2～3年生による中国語、韓国語のスピーチは、まるで中国や韓国に来ているかのように流暢なスピーチでした。次に、バトントワリングで世界大会に出場した本高校選手による演技。観客のほとんどが初見で、世界レベルの技を見ることができ幸運だったと思います。また書道部によるパフォーマンスも、テレビ画面と違い実際に見ると迫力満点の出来栄に驚かされました。どのステージもこの文化祭のために練習を重ね、素晴らしい発表となりました。

展示の部では2学年の「世界遺産」をテーマにした展示も各クラス「絆」を深め、団結を感じられるような作品ができ上がりました。例年通り、各クラブ、委員会による展示の取り組みも見ごたえのあるものだったと思います。初の試みが多数あった今年度の文化祭。まだまだ発展していきますのでぜひ次回も足を運んでください。



茶道部によるお点前



介護の仕事を通し「いのち」を学んだ講演会  
(左から中津先生、角戸先生)

## 2 学年性教育講演会「いのち」

10月29日、2年生を対象に性教育講演会を行いました。今年度は講師としてNPO法人海祐会から角戸理恵先生、中津尚美先生にお越しいただきました。

お二人に来ていただいたきっかけは「笑って泣いて寄り添ってリエとナオミ 10年の記録」という番組です。介護福祉を学んだ同級生が社会に出て現実を知り、理想の福祉を目指して23歳という若さで会社を起こします。高齢者の死を目の当たりにして、自分たちの限界を知る姿が描かれています。まずは生徒にそのVTRを見てもらいました。

その後角戸先生、中津先生に講演いただきました。介護職の種類・就職方法・現状を話し、自分の仕事に対する思いについて「仕事を仕事とって思っていたことはない」「お年寄りが本当に大好きなんです」と言われました。

お二人は高齢者に寄り添う介護を目指し介護施設を運営されていますが、施設には10代の職員さんが4名いるそうです。中学校を卒業してすぐに就職した人もおり、10代特有の感覚に仕事の大切さをどう伝えたいか悩むこともあると話していました。

これから進路決定を行う2学年にとって、いろんな人生があり、自分がどのように生きていきたいかを考えさせられる内容だと思います。お二人にはお忙しい中、自分たちの思いを高校生たちにも伝えたいと講演依頼を受けていただきました。ありがとうございました。



## 2013年オープンスクールを開催

9月22～23日、2013年オープンスクールを開催しました。両日合わせて過去最高の2,275人の中学生およびその保護者の方にご参加いただきました。学校についてより多くのことを伝え、来場者に満足していただくために、教員はもとより300名ほどの生徒たちも一丸となっておもてなしをしました。

体育館で行った全体説明会や模擬授業見学などの企画は例年になく好評でした。特に全体説明会は本年度から生徒による運営がなされており、生徒会会長、副会長が全体の司会と各学科説明を行いました。各学科説明では普通科・総合学科それぞれの特徴をコンパクトに分かりやすく説明しました。その後在校生の代表4名による学校説明がありました。笑いを誘いながらの一生懸命な説明には、中学生のみならず保護者からも印象に残ったとの感想をいただきました。

また模擬授業では本年度から行った「染色」の授業が高い評価を受けていました。総合学科の学習活動の一環で、きれいな藍染が仕上がっていく様子が印象的でした。また、「ハングル」「中国語」「茶道」「エアロビ」「理科実験」などたくさんある模擬授業だけでなく、「吹奏楽部のコンサート」や「学食体験」もかなり盛況でした。

来場者の皆様には本高校をさらに深く知り、良い印象を持っていただいたのではと思います。



理科実験の様子(ペットボトルロケット)



北海道：乗馬体験



沖縄：エイサー体験

## 修学旅行

今年度の修学旅行は、北海道、沖縄、台湾、そして朝鮮半島の政情不安により韓国から関東・東北方面に変更した4方向に10月14日から4泊5日の日程で実施しました。

北海道・沖縄では広島とは異なる文化と歴史そして大自然を満喫。親日国台湾では台湾の歴史に日本の歴史を垣間見ることができ、学校交流を通して「おもてなし」の大切さについて考えることができました。関東・東北では震災の被害状況を見聞しながら、自分たちにできることを考える機会となりました。修学旅行で見たこと体験したことが単なる思い出にとどまらず、今後の自分の生き方や考えを変える起点となることを期待しています。



関東・東北：震災被害の状況を聞く

## 国際交流「異国情緒を感じて」台湾修学旅行から

普通科2年7組 森井 秀行(呉市立昭和北中学校出身)

私は修学旅行で台湾に行ってきました。普段味わうことができない外国の雰囲気や文化など多くの刺激や感動を感じ、とても充実したものになりました。

昔、日本が統治していたこともあり、台北市内や九份の自主研修ではお年寄りの方から上手な日本語で話しかけられました。どこから来たの？修学旅行？…など初対面の私達に温かく接してくれました。

さて、この修学旅行で一番印象に残ったのは安康高級中学校との学校交流会です。バスから降りると生徒達が長蛇のように並び、歌を歌いながら出迎えてくれました。交流会では校長先生の挨拶に始まり歓迎の演奏・ダンスなどが披露されました。その後、安康高級中学校の生徒とお互いの国の紹介や流行しているものについて話しました。英語での会話となりましたが、続かないし、理解してもらうのに大変苦労しました。自分自身の英語力の不足を痛感するとともに、単語を積み重ねながらなんとか伝わったとき国際交流の醍醐味を感じることができました。

また、忠烈祠での衛兵交代式、台北101展望台からの夜景、士林夜市、九份の町並みはとても異国情緒を感じました。台湾修学旅行で得た刺激や感動は「海外に住みたいという気持ち」をより確かなものにしてくれました。



安康高級中学校との交流会

# 第46回高城祭『POPCORN!!!』を終えて

高城祭実行委員会 委員長 前田 正伍  
(現代社会学科4年 広島県立府中東高校出身)

10月19～20日に中野キャンパスにて、高城祭を開催しました。

1日目の当夜祭は、雨の心配もほとんどなく、素晴らしいスタートを切ることができました。今年度学部編成が変わったことに便乗し「HKG学科対抗クイズ」では、各学科の出場者たちが熱い火花を散らしていました。正解すると同じ学科の観客が歓声を上げるなど、盛り上がりを見せていました。

今回は関西を中心に活躍されている大道芸人のミスターウキウキさんをお招きしました。観客も息を呑む“炎のジャグリング”のパフォーマンスや、関西出身ならではの軽快なトークで、会場が驚きと笑いに包まれました。

「高城フレンドパークⅡ」では、参加者に様々なゲームを行っていただきました。ゲームの最後に『パジェロ(ラジコン)』か『たわし』どちらかが当たる巨大ダーツで見事“たわし”を当てられ、楽しんでもらえました。



いろいろなゲームで盛り上がった  
「高城フレンドパークⅡ」



課外授業後にバザーを一巡、  
チョコバナナを賞味するガッツ先生

当夜祭恒例のビンゴ大会は、最後まで豪華景品が残るというドラマのような展開にお客さんの期待も高まり、終盤で大型テレビをOBの方が当てるという波乱も起こりました。多くの方々に高城祭を満喫していただけたと思います。

その夜は雨が降りましたが、朝には天気も回復し、2日目の終夜祭をなんとか開催することができました。4年連続“雨”の高城祭より一歩前進できたと自負しています。本大学客員教授のガッツ石松先生の課外授業では、何人かの学生にボクシングや護身術をご指導いただきました。「ガッツ先生を一目見たい」というお客さんも多く見受けられ、時折笑いが起こるなど終始和やかな雰囲気でした。

カラオケ大会はコスプレあり、人気アイドルグループのモノマネありと、歌唱力のみならずパフォーマンス力でも観客を魅了していました。

目玉企画であるゲストアーティストライブには「WEAVER」をお招きし、予想を超えて多くのお客さんに来場いただきました。甘い歌声に会場は盛り上がり、最後まで興奮冷めやらぬ高城祭となりました。

最後に皆さんお待ちかねの高城祭名物、打ち上げ花火。毎年楽しみにしておられる近所の方々、お客さんや学生の驚きや笑顔に、実行委員をはじめ、学友会役員全員が達成感を感じています。

高城祭を温かく見守ってくださる地域の方々と、本学の教職員、学生、短大の皆さん、系列高校の先生方、お世話になった関係企業の方々等、様々な人に支えられて私たちの祭が行えたことに感謝しています。

皆様のご協力、本当にありがとうございました。次回もまたよろしくお祈りします。



美声に加え、パフォーマンスも観客を魅了した  
カラオケ大会

## 大学同窓会総会

11月9日、ホテル広島ガーデンパレスで広島国際学院大学同窓会の平成25年度総会を開催しました。平成24年度事業報告と決算報告および監査報告を行い、同25年度事業計画案や予算案が提示されました。一部は質疑応答を経て、いずれも会員の承認を得ました。

続く懇親会では恩師や旧友と和やかな雰囲気の中で話に花を咲かせました。アトラクションの大道芸では大技の連続に驚嘆の声しきりでした。恒例のビンゴゲームで盛り上がりは最高潮に達しました。カメラやゲーム機などの豪華賞品が引き当てられるたび、会場に大きな歓声が起こりました。また前同窓会長の田植憲司様からは今回もご自身で作られた新米を賞品にご提供いただき、幸運な参加者が喜んで持ち帰っていました。

1期生から現役生まで楽しく旧交を温め、再会を約してお開きとなりました。



芸人の華麗な技に見入る参加者

## 学生時代の思い出と社会人になって思うこと

# 旅の体験が一番の宝、社会で活かす情熱とパワー



峰さん

株式会社 中電工 専務取締役兼執行役員 峰 賢一さん  
(広島電機大学電子工学科 昭和47年3月卒業)

本大学の2期生として卒業して42年が過ぎつつありますが、振り返ってみると学生(大学)時代の思い出は楽しかったことだけが浮かんできます。私が入学した時は大学も産声をあげたばかりで、何とかして大学の存在を認知させることに仲間と汗をかいたことが思い出されます。今になって考えれば、この情熱とパワーが社会人の一人として活かされているのではないかと思います。

ヒューマン&ジャニーのクラブを設立し、活動した思い出が鮮烈に今でも記憶に残っています。「知らぬ土地を廻り人との交流また歴史を学ぶ」の主旨での活動でした。テントを担ぎ片道切符でほぼ全国を廻りました。時には駅で寝泊りし、またお寺、一般の民家、公園の中と今では考えられないことでしょうかそれができた時代でありました。リュックサックを担ぎ旅をする学生が沢山おり通称「蟹族」と呼ばれていました。アルバイトで貯めたお金は全てクラブ活動に使い果たしましたが、旅から得た物はお金に換算できない体験であり、私の一番の学生時代の宝物です。

今では会社で若い人との交流を持ち続けています。社会(会社)では、人は財産であり力であると言っています。情報社会となりパソコンとの睨み合いで人とのつながりでの情報収集が少し薄れてしまっていると感じています。「自身の足で動き、目で確認し、耳で聞き判断し、口で報告する」のが大切だと思います。

学生時代は自由人ですが、大学という名の組織人です。社会に出れば会社の名の組織人です。今からは「良識ある行動がとれる」人材が求められています。

堅い話になりましたが学生時代は二度と戻ってきません。しっかり学んで遊んで人の輪を広げ、悔いのない学生時代を過ごしていただきたいと思います。

## 『表千家流茶道部の大きな茶会活動』

表千家流茶道部 部長 柏原 健二(現代社会学科3年 大竹高校出身)

私ども表千家流茶道部は発足以来、14年目です。道具も何もないゼロからの出発でしたが、今ではありがたいことに学外の社会人や企業の茶会に、広島の大学茶道部の中では一位指名を受け、お手伝いさせていただいております。

10月24日には国際的組織である「国際ソロプチミスト広島」がリーガロイヤルホテル広島でチャリティー茶会を催しました。ご指名により、お点前やお菓子とお茶のお運びをさせていただきました。大ホールで広島政財界の方々1,000人のお客様に大変緊張し、今の自分達の精一杯を出しましたが、茶会のたびに沢山の気づきと反省や感動があり、良い勉強になりました。

また11月18日には宮島の厳島神社にて大行事の「献茶祭」があり、全国から1,300人のお茶人が集まりました。表千家お家元による献茶式をはじめ、社殿の内外に4つの茶席が設けられ、私どもは



国際ソロプチミスト広島チャリティー茶会で  
お点前を披露する柏原さん



厳島神社の献茶祭でお茶席を手伝う  
茶道部員(左2人)

お客様のご案内やお湯運びなどさせていただきました。満潮の中、海に浮かぶ朱の回廊は幻想的で美しく、こんな大きな茶会をお手伝いでき、心から感動し、感謝いたしました…。

わが茶道部のモットーは「チャンスは掴め!!」、「今ある物に感謝し、無い物は生み出せ!!」です。そうなれるよう地道に稽古し、人と自分を大切にする精神茶道に精進していきたいと思っております。

最後に今の私どもがあるのも、いつもご指導くださる久賀先生や部の先輩方の努力の歴史があればこそ。そして、西本名誉学院長や鶴理事長、奥田学長はじめ大学の皆様のご支援のおかげです。周りの全ての皆様に心から厚く感謝申し上げます。

## 有終の美、全国2位の中

アーチェリー部 石田 明日香(総合工学科4年 広陵高校出身)



全日本学生アーチェリー選手権大会でプレーする石田さん

今回、全日本学生アーチェリー選手権大会での感想は『大学生生活4年間の総まとめのような試合でした。』

全日本学生アーチェリー選手権大会には大学1年生から出場しており、大学3年生の時にようやく予選を通過し、最終順位は5位でした。その時はとても緊張し、思うような試合ができませんでした。この試合の後に行われた国民体育大会(ぎふ清流国体)では、個人4位という成績を残しました。この時に『まだ自分は、成長できて上位を目指すことが出来る!!』と思い、これまでの試合を振り返り、練習内容を新たに考え直して練習に取り組みました。

全日本学生アーチェリー選手権大会当日は、それほど緊張はしていませんでしたが、天候が悪くなると聞いていたので、天気の方が気になりながらの試合でした。

トーナメントの予選では、ロングハーフ(70m、60m)の中間発表で3位だったのですが、ショートハーフ(50m、30m)で順位を落とし9位での予選通過でした。トーナメントでは、偶然にも今までトーナメントで対戦をやってきて負けてしまった人達との対戦でした。そのときの気持ちは『4年生最後のインカレだから、悔いの無いように撃とう!今まで負けてしまっていたけれども、今回の自分は今までと違うんだ!』と、思いながら準決勝まで進みました。決勝戦では、まさか自分がこの舞台に立てると思っていなかったのも、とても緊張しました。結果は負けてしまい2位でしたが、とても良い試合ができたと思っています。

今までは、全ての試合がアーチェリーの技術を勉強する場でしたが、4年生になり自分の射型も安定してきて、技術を勉強する場が、今の自分ではどこまでできるのかという挑戦する場が変わっていました。

今年で卒業ですが、国体、全国大会で良い結果が出せたので本当に良かったと思います。そして、今まで応援をしてくれた方々や、サポートしてくださった方々にとっても感謝しています。本当に大学4年間、ありがとうございました。

## 茶道の久賀先生、特別客員教授に就任

本大学茶道部をご指導いただいている久賀員子先生に、9月1日付けで特別客員教授にご就任いただきました。本大学の客員教授はナチケタ・ダス博士、ガッツ石松氏と合わせて3人となりました。

久賀先生は5歳の時からお茶を習い始め、以後本格的に表千家の茶道に精進され、平成15年に茶道表千家教授者の資格を取得。平成20年からは中国新聞文化センターの茶道講師を担当されています。

茶道部は発足した平成12年から先生のご指導を受けており、現在では広島県内でトップの力量を誇る大学茶道部に成長しました。入学式やオープンキャンパスなどで茶会を開いているほか、学外で開催される有名な茶会にも参加し活躍しています。久賀先生の特別客員教授就任によって、茶道部の活動をさらに活性化するとともに、キャリア教育等にも非常勤講師として携わっていただく予定です。また教職員にも茶の湯の心や日本文化について講演していただきます。



久賀先生

### ★ 今後の主な行事予定

(赤字は公開行事です)

大学・短大	推薦入試(短1/30) 一般入試(大 前期1/30~31 後期3/13 短 前期1/30 後期3/13) 学内合同企業セミナー(大 2/17~18) <b>卒業論文発表会(現 2/15)</b> <b>卒業研究・卒業制作選抜展(情テ 2/22~24: アステールプラザ市民ギャラリー)</b> 卒業証書授与式(3/19) 入学宣誓式(4/5)
高 校	推薦入試(2/4) マラソン大会(2/8) 一般入試(2/18~19) 卒業式(3/1) 入学式(4/8)

92号訂正: 11ページ 「留学生交流会」 所属学科「食農バイオ・リサイクル学科」→「総合工学科」

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536